

研究課題番号	3-1904
研究課題名	最終処分場からの POPs 及びその候補物質の浸出実態の把握手法及び長期的な溶出予測手法の開発に関する研究
研究実施期間	令和元年度～令和3年度
研究機関名	大阪府立環境農林水産総合研究所
研究代表者名	矢吹 芳教

## 1. 委員の指摘及び提言概要

最終処分場浸出水を中心に、PFAS 類を含めた分析前処理法開発から実測定事例を多く提供されたことは時機を得た取り組みであり、学術的な成果から、政策的な貢献につながる成果を上げている。塩素数の少ない PCN が塩素数の多い PCN よりも溶出しやすいことや、産業廃棄物処分場のほうが一般廃棄物処分場よりも溶出リスクがあることを実態調査で明らかにできたこと、また、フミン酸存在下での溶出促進、シミュレーションでは、塩素数 5 以上は処分場外への排出は将来的にもないが、塩素数 2 以下では 20-30 年後に排出濃度が増加し、塩素数 3-4 では 120 年後に増加することを計算したことは評価できる。シミュレーション精度の一層の向上は不可欠であるが、長い時間スケールでの維持管理が示されたことは今後の環境政策を考える上で重要である。今後の精度向上及び削減のための対策技術の提案を期待したい。

## 2. 採点結果

評価ランク：A